

事務連絡
平成 23 年 8 月 1 日

関西、北陸、中国、四国、九州電力管内

厚生労働大臣認可
〔 水道事業者
水道用水供給事業者 〕 殿
各府県水道行政担当部（局）

厚生労働省健康局水道課

西日本における節電について（情報提供）

今般の東日本大震災に伴う対応について、特段の御配慮をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

西日本の節電に関し、内閣官房及び経済産業省より別添のとおり協力依頼がまいりましたので、情報提供いたします。各水道事業者等におかれましては、別添を参考に、節電に取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

また、各都県水道行政担当部（局）におかれましては、貴管下府県認可水道事業者等に対する周知をよろしくお願い申し上げます。

連絡先

厚生労働省健康局水道課

担当：泉、梁瀬

電話：03-5253-1111（内線 4028）

E-mail: suidougijutsu@mhlw.go.jp

西日本の節電に関する協力依頼

平成 23 年 7 月 20 日
内 閣 官 房
経 済 産 業 省

本日（7月20日）、第1回電力需給に関する検討会合が開催され、「西日本5社の今夏の需給対策について」が決定されました。

今後、関西電力管内においては、全体として▲10%以上を目途に節電をお願いすることになり、また、その他の西日本の電力会社の管内においても、国民生活及び経済活動に支障を生じない範囲での節電をお願いすることになりました。

関係各府省におかれましても、関係の企業、機関、団体等に対しまして、本日の決定に基づいて、別添資料により周知のご協力をお願い申し上げます。また、各地方支分部局及び政府関係機関については、「夏期の電力需給対策について」（5月13日電力需給緊急対策本部決定）で定めた「政府の節電実行基本方針」に掲げる「節電に係る具体的取組」を参考として、節電に率先して取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

(別添)

1. 西日本5社の今夏の需給対策について
2. 節電パンフレット（事業者向け）
3. 節電パンフレット（家庭向け）

西日本5社の今夏の需給対策について

平成 23 年 7 月 20 日
電力需給に関する検討会合

1. 東北・東京・中部の状況

(1) 東北・東京電力については、震災による供給力減に対応し、供給力の追加措置を講じる一方、「夏期の電力需給対策について」(5/13 電力需給緊急対策本部決定)に基づいて、▲15%の目標を掲げ、需要抑制に取り組んでいる。

(注1) 東京電力の供給力は、西からの融通 100 万 kW を織り込まなくなった一方、自家発からの購入増、揚水の復旧等による供給力追加措置により、5,470 万 kW (予備率▲8.8%)。東北電力の供給力は、1,382 万 kW (予備率▲6.6%)。

(注2) 予備率を算定する前提とした最大電力需要は、平成 22 年度夏ピーク (1 日最大値) をベースに「夏期の電力需給対策について」で定めたもの。

(2) 中部電力については、浜岡原子力発電所の全号機停止に対応し、供給力の追加措置を講じた結果、予備率は3.2%。最低限必要な3%は上回っているが、通常必要とされる8%以上の水準となっていないことから、国民生活及び経済活動に支障を生じない範囲で節電に取り組んでいる。

2. 西日本における今夏の需給見通し (別紙1、2、3参照)

(1) 西日本5社(関西・北陸・中国・四国・九州電力)については、定期検査等を終了見込みの原子力発電所が再起動すれば、予備力10%前後となるが、再起動できない場合、西日本5社合計で予備率が▲2.3%となる。

(2) これに対し各社は、水力及び火力の補修作業時期の変更や自家発からの購入増などの供給力追加措置に取り組んできた。この結果、西日本5社全体で予備率は1.7%、60Hz エリア(中西6社)全体での予備率は2.1%を確保できる見通しが立っていたところである。

(3) しかしながら、関西電力大飯原子力1号(118万 kW:調整運転中)が7月16日に、さらに中国電力三隅火力(100万 kW)が7月18日に、トラブルで停止したことにより、西日本5社全体で予備率は▲1.2%、60Hz エリア(中西6社)全体での予備率は▲0.0%となる。

(4) 個々の会社では、以下のとおり。

- ① 関西電力が、大飯原子力1号の停止に加え、高浜原子力4号(7/21)、大飯原子力4号(7/22)が定検で停止するが、これに加えて、三隅火力の停止に伴い中国電力からの融通が見込めない場合、予備率は▲6.2%となる。
- ② 他社は、予備率はプラスとなっているが、四国電力(予備率4.0%)以外は最低限必要な予備率3%を下回る。(北陸電力2.0%、中国電力2.8%、九州電力2.1%)

3. 西日本の今夏の需給対策の基本的考え方

西日本の電力管内において、以上の状況を踏まえ、需給逼迫による停電の発生を回避するため、以下の対応を行う。

(1) 供給面

- ① 引き続き、自家発の活用等、供給力の積み増し努力を続けていく。
- ② また、日々の電力システムの運用において、各社の需給状況を踏まえつつ、更に機動的な相互の融通を行うことで、需給が逼迫する地域(特に関西電力管内)の需給バランスを確保できるような対応を行う。

(2) 需要面

① 関西電力管内における取組

i) 関西電力管内(別紙4)においては、これまで、管内の自治体又は自治体の連合により節電に対する積極的な取組みがなされてきたところであり(注)、また、関西電力による節電要請も行われてきたところである。

こうした取組がなされている中で、今般の供給力低下の新たな事態を迎え、発電所のトラブル等のリスクも考慮し、今夏のピーク期間・時間帯(目安は、7月25日から9月22日の平日の9時から20時)において、全体として▲10%以上を目途に節電に取り組むこととする。この具体的な節電への取組みに当たっては、上記管内自治体等の取組みを十分踏まえて行うものとする。

(注) 関西広域連合ではピーク時10%の節電を呼びかけ、傘下の各県においても具体的な呼びかけを行っている。また、奈良県では10%超、福井県では10%以上の節電の呼びかけを行っているなど、各自治体が節電に取り組んできている。

ii) 節電に当たっては、使用最大電力(kW)の抑制を基本として、国民生活及び経済活動への影響を最小限とするように取り組む。この観点から、生命・身体

の安全確保に不可欠な施設や、安定的な経済活動・社会生活に不可欠である一方、電力の使用形態から一律適用が困難な施設等については、東京・東北電力管内における電気事業法第27条の適用に当たっての制限緩和措置の考え方(別紙5)も参照して、それぞれの事情を勘案した節電に取り組む。

②他の電力の管内については、国民生活及び経済活動に支障を生じない範囲での節電(具体的には、照明・空調機器等の節電など)に取り組む。

③政府の地方支分部局及び政府関係機関においては、「夏期の電力需給対策について」(5月13日電力需給緊急対策本部決定)で定めた「政府の節電実行基本方針」に掲げる「節電に係る具体的取組」を参考として、節電に率先して取り組む。

④政府としては、以下のような支援・広報活動を行う。なお、電事法第27条の発動による需要抑制は行わない。

i)事業者(大口・小口需要家)向けには、「夏期の電力需給対策について」で示した節電行動計画の標準フォーマットを活用して具体的な「節電アクション」をわかりやすく示すとともに、節電ポータルサイトの活用を図る等支援・広報活動を行う。

ii)家庭向けには、「夏期の電力需給対策について」に基づく「節電対策メニュー」を活用した広報活動を行う。

⑤電力需給の逼迫が予想される場合には、需給調整契約の最大限の活用による大口需要家等への需要抑制や、政府から一層の節電を依頼する「需給ひっ迫のお知らせ」による情報提供を行う。

(注)翌日の予備率が3%未満になると予想される電力管内がある場合には、需給が逼迫していることを管内に周知し、より一層の節電を促すために「電力需給逼迫のお知らせ(仮称)」を発出。タイミングは前日夕刻と当日朝を想定。

西日本5社における今夏(8月)の需給見通し[発電端、万 kW]

◆平成 23 年度供給計画ベース

	関西	北陸	中国	四国	九州	西5社	中西6社
最大需要	3,138	573	1,201	597	1,750	7,259	9,968
供給力	3,381	690	1,342	666	2,041	8,120	11,208
予備力	243	117	141	69	291	861	1,241
予備率	7.7	20.4	11.7	11.6	16.7	11.9	12.4

※供給力は平成 23 年度供給計画ベース。



◆定検等を終了見込みの原子力が一つも再起動できない場合(追加対策なし)

	関西	北陸	中国	四国	九州	西5社	中西6社
最大需要	3,138	573	1,201	597	1,750	7,259	9,968
供給力	2,904	523	1,313	577	1,778	7,094	9,758
予備力	▲234	▲50	112	▲20	28	▲164	▲210
予備率	▲7.5	▲8.8	9.3	▲3.4	1.6	▲2.3	▲2.1

※供給力は平成 23 年度供給計画ベースから原子力分を除いて試算。また、供給計画策定以降の状況変化も反映。



◆供給力増加対策実施後

	関西	北陸	中国	四国	九州	西5社	中西6社
最大需要	3,138	573	1,201	597	1,750	7,259	9,968
供給力	3,015 (2,943)	584	1,263 (1,235)	621	1,786	7,268 (7,168)	10,065 (9,965)
予備力	▲123 (▲195)	11	62 (34)	24	36	10 (▲90)	97 (▲3)
予備率	▲3.9 (▲6.2)	2.0	5.1 (2.8)	4.0	2.1	0.1 (▲1.2)	1.0 (▲0.0)

()は三隅火力が停止している間

各社の供給力増加対策

(1)関西電力

- ・ 補修作業時期の変更
 - － 奥多々良木、黒部川第二、赤尾、蟹寺水力(34万kW)
 - － 共同火力(7万kW)
- ・ 火力の増出力(+10万kW)
- ・ トラブル停止していた舞鶴火力1号(90万kW)の再起動
- ・ 自家発・PPSからの購入増(+23万kW。合計で93万kW)
- ・ 他電力からの融通(+65万kW)
 - ※大飯原子力1号がトラブル停止(▲118万kW)
 - ※三隅火力が停止している間は他電力からの融通は取り止め(▲72万kW)

(2)北陸電力

- ・ 補修作業時期の変更
 - － 有峰水力1～3号(16.5万kW)
 - － 福井三国火力1号(25万kW)
- ・ 他電力への融通取り止め(+20万kW)

(3)中国電力

- ・ 停止予定の瀬戸内共同火力の稼働(22万kW)
- ・ 他電力への融通(▲72万kW)
 - ※三隅火力がトラブル停止(▲100万kW)
 - ※三隅火力が停止している間は融通取り止め(+72万kW)

(4)四国電力

- ・ 補修作業時期の変更
 - － 坂出火力2号(35万kW)
- ・ 自家発等からの購入増(+14万kW)
- ・ 他電力への融通(▲4万kW)

(5)九州電力

- ・ 離島の内燃力設備の臨時稼働(+8万kW)

今夏の需給見通し

〔発電端（万kW）、％〕

＜三隅火力発電所が復帰した後＞

	北海道電力	東北電力	東京電力	中部電力	関西電力	北陸電力	中国電力	四国電力	九州電力	東日本3社 合計	中西日本6社 合計	西日本5社 合計	9社合計
最大電力需要※	506	1,480	6,000	2,709	3,138	573	1,201	597	1,750	7,986	9,968	7,259	17,954
対策後の最大供給力	549	1,382	5,470	2,797	3,015	584	1,263	621	1,786	7,401	10,065	7,268	17,466
予備力	43	▲ 98	▲ 530	87	▲ 123	11	62	24	36	▲ 585	97	10	▲ 488
予備率(%)	8.5	▲ 6.6	▲ 8.8	3.2	▲ 3.9	2.0	5.1	4.0	2.1	▲ 7.3	1.0	0.1	▲ 2.7

※最大電力需要は、東北電力・東京電力管内は、平成22年度夏ピーク(1日最大値)をベースに「夏期の電力需給対策について」で定めたもの。他の電力管内は、平成22年度夏ピーク実績又は各社の平成23年度夏ピーク見通しのいずれか高い方で想定。

＜三隅火力発電所が復帰しない期間＞

	北海道電力	東北電力	東京電力	中部電力	関西電力	北陸電力	中国電力	四国電力	九州電力	東日本3社 合計	中西日本6社 合計	西日本5社 合計	9社合計
最大電力需要※	506	1,480	6,000	2,709	3,138	573	1,201	597	1,750	7,986	9,968	7,259	17,954
対策後の最大供給力	549	1,382	5,470	2,797	2,943	584	1,235	621	1,786	7,401	9,965	7,168	17,366
予備力	43	▲ 98	▲ 530	87	▲ 195	11	34	24	36	▲ 585	▲ 3	▲ 90	▲ 588
予備率(%)	8.5	▲ 6.6	▲ 8.8	3.2	▲ 6.2	2.0	2.8	4.0	2.1	▲ 7.3	▲ 0.0	▲ 1.2	▲ 3.3

※最大電力需要は、東北電力・東京電力管内は、平成22年度夏ピーク(1日最大値)をベースに「夏期の電力需給対策について」で定めたもの。他の電力管内は、平成22年度夏ピーク実績又は各社の平成23年度夏ピーク見通しのいずれか高い方で想定。

関西電力の供給区域

○大阪府

○京都府

○奈良県

○滋賀県

○和歌山県

○兵庫県(赤穂市福浦を除く)

○三重県のうち、南牟婁郡及び熊野市(金山町、久生屋町、有馬町、井戸町、木本町、飛鳥町、五郷町、育生町、神川町、紀和町)

○岐阜県のうち、不破郡関ヶ原町(今須西町、今須中町、門前、祖父谷、平井、竹の尻、門間、下明谷、貝戸、新明)

○福井県のうち、小浜市、大飯郡、三方郡及び三方上中郡

東京・東北電力管内における電気事業法第27条の適用に 当たっての制限緩和措置の考え方

東京・東北電力管内における大口需要家については、原則、昨年の使用最大電力の値の15%削減した値を使用電力の上限とし、例外として以下の制限緩和措置を講じている。

(1) 生命・身体の安全確保に不可欠な需要設備

①医療関係

- 医療施設：削減率0%
- 使用制限が生命・身体の安全確保に特に影響を及ぼす医薬品・医療機器製造販売業及び製造業、医薬品卸売販売業：削減率0%

②老人福祉・介護関係

- 使用制限が生命・身体の安全確保に重大な影響を及ぼす老人福祉施設、介護保険施設、障害児（者）福祉施設等：削減率0%

③衛生・公衆安全関係

- 休廃止鉱山鉱害防止等工事費補助金により地方公共団体が実施する坑排水処理事業：削減率0%
- 上下水道、上下水道等に原水を供給する揚水機場（調整池を有さないものに限る）：削減率5%
- 産業廃棄物処理施設（焼却処理施設に限り、当該施設が主要施設である場合に限る）：削減率5%
- 火葬場：削減率10%
- と畜場：削減率10%

(2) 安定的な経済活動・社会生活に不可欠な需要設備

①24時間・365日電力使用の変動幅がほぼフラットな需要設備

- 情報処理システムに係る需要設備（例：データセンター、金融機関、航空、通信関係のシステム）：削減率（変動幅に連動）
- クリーンルーム又は電解施設を有する需要設備：削減率（変動幅に連動）

※電力使用の変動幅と削減率

変動幅10%未満：削減率0%

10%以上15%未満：削減率5%

15%以上20%未満：削減率10%

②人流・物流等への影響が大きく電力の使用時間帯が変えられない需要設備

i) 交通関係

- 鉄道一般 12時～15時：削減率15%、その他の時間帯：削減率0%
- 東北・長野・上越・東海道新幹線、青函トンネル：削減率0%
- ローカル路線 片道3本/時：削減率0%、片道4, 5本/時：削減率5%（9時～12時、15時～20時は0%）

ii) 航空関係

- 航空保安施設：削減率5%
- 空港ターミナルビル：削減率5%

iii) 物流関係

- 定温倉庫、貯蔵槽倉庫、冷蔵倉庫、一定の冷蔵室を有する食料・飲料卸売業：削減率5%
- 中央・地方卸売市場：削減率5%
- 港湾運送等に係る需要設備：削減率5%

iv) 宿泊関係

- ホテル・旅館：削減率10%

v) エネルギー供給関係

- 発電のためのガス供給等に係る需要設備：0%
- 発電所等に送水する工業用水：5%

vi) その他

- 一般紙の夕刊印刷工場 12時～15時：削減率0%、その他の時間帯：削減率15%
- 夕刊紙の印刷工場 10時～12時：削減率0%、その他の時間帯：削減率15%

(3) その他

- 一括受電マンション等：契約電力上限
- 平成23年3月11日以降、今夏の電力使用抑制のために東京・東北電力管外に移転した需要設備について、同一法人の他の需要設備の削減量に考慮
- 設備の検査等により基準期間・時間帯の使用最大電力の値が契約電力に比して著しく低い場合の基準電力値を契約電力とする緩和措置

西日本5社における今夏の需給見通し [発電端、万kW]

◆平成23年度供給計画ベース

	関西電力	北陸電力	中国電力	四国電力	九州電力	西5社計	中西6社計
最大需要	3,138	573	1,201	597	1,750	7,259	9,968
供給力	3,381	690	1,342	666	2,041	8,120	11,208
予備力	243	117	141	69	291	861	1,241
予備率	7.7	20.4	11.7	11.6	16.6	11.9	12.4

※供給力は平成23年度供給計画ベース



◆定検等を終了見込みの原子力が一つも再起動できない場合(追加対策なし)

	関西電力	北陸電力	中国電力	四国電力	九州電力	西5社計	中西6社計
最大需要	3,138	573	1,201	597	1,750	7,259	9,968
供給力	2,904	523	1,313	577	1,778	7,094	9,758
予備力	▲ 234	▲ 50	112	▲ 20	28	▲ 164	▲ 210
予備率	▲ 7.5	▲ 8.8	9.3	▲ 3.4	1.6	▲ 2.3	▲ 2.1

※供給力は平成23年度供給計画ベースから原子力分を除いて試算。また、供給計画策定以降の状況変化も反映。

各社の供給力 増加対策	<ul style="list-style-type: none"> 補修作業時期の変更 <ul style="list-style-type: none"> 奥多々良木、黒部川第二、赤尾、蟹寺水力(34万kW) 共同火力(7万kW) 火力の増出力(+10万kW) トラブル停止していた舞鶴火力1号(90万kW)の再起動 自家発・PPSからの購入増(+23万kW。合計で93万kW) 他電力からの融通(+65万kW) 	<ul style="list-style-type: none"> 補修作業時期の変更 <ul style="list-style-type: none"> 有峰水力1~3号(16.5万kW) 福井三国火力1号(25万kW) 他電力への融通取り止め(+20万kW) 	<ul style="list-style-type: none"> 停止予定の瀬戸内共同火力の稼働(22万kW) 他電力への融通(▲72万kW) 	<ul style="list-style-type: none"> 補修作業時期の変更 <ul style="list-style-type: none"> 坂出火力2号(35万kW) 自家発等からの購入増(+14万kW) 他電力への融通(▲4万kW) 	<ul style="list-style-type: none"> 離島の内燃力設備の臨時稼働(+8万kW)
	<ul style="list-style-type: none"> ※大飯原子力1号(117.5万kW)がトラブル停止 ※三隅火力が停止している間は他電力からの融通取り止め(▲72万kW) 		<ul style="list-style-type: none"> ※三隅火力(100万kW)がトラブル停止 ※三隅火力が停止している間は融通取り止め(+72万kW) 		



◆供給力増加対策実施後

	関西電力	北陸電力	中国電力	四国電力	九州電力	西5社計	中西6社計
最大需要	3,138	573	1,201	597	1,750	7,259	9,968
供給力	3,015	584	1,263	621	1,786	7,268	10,065
予備力	▲ 123	11	62	24	36	10	97
予備率	▲ 3.9	2.0	5.1	4.0	2.1	0.1	1.0
三隅火力が停止中の供給力	2,943	584	1,235	621	1,786	7,168	9,965
三隅火力が停止中の予備力	▲ 195	11	34	24	36	▲ 90	▲ 3
三隅火力が停止中の予備率	▲ 6.2	2.0	2.8	4.0	2.1	▲ 1.2	▲ 0.0

事業者の皆さまへ

節電アクション

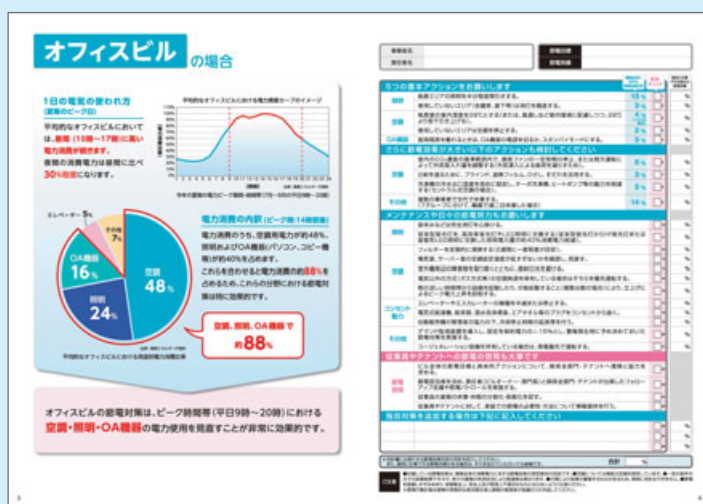
資源エネルギー庁



この夏の節電のために 本「節電アクション」をご活用下さい。

本書の使い方

- 電力消費が特徴的で、かつ汎用的な利用が可能な8業種について、標準的な節電アクション及び効果目安をお示ししています。チェックを行いながら、節電の取組についてご検討いただけます。
- 該当する業種(該当するものがない場合には電力消費の構造が近いと考えられる業種)の節電アクションを利用し、節電への取組チェックをお願いします。



目次

- オフィスビル……P3、4
- 卸・小売店……P5、6
- 食品スーパー……P7、8
- 医療機関……P9、10
- ホテル・旅館…P11、12
- 飲食店……P13、14
- 学校………P15、16
- 製造業………P17、18
- 記入例………P19、20

(参考)

政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」を活用して、節電行動計画を自主的に策定・公表いただいた方は、「節電宣言ステッカー」・「節電宣言ポスター」の活用が可能です。

「節電宣言ステッカー」・「節電宣言ポスター」を目につく場所に貼り、店舗の利用者や従業員の方々に周知する際にお役立て下さい。

政府の節電ポータルサイト(事業者向け) <http://jigyo.setsuden.go.jp>



印刷用ステッカー

職場やお店に掲出するためのステッカーです。印刷してご活用ください。

▶ 印刷用データを表示する

「節電宣言ステッカー」事業者毎のステッカーが作成されます。ダウンロードしご活用下さい。



PRバナー

登録していただいた登録者ページを紹介するためのバナーです。ぜひホームページなどに貼ってご活用ください。

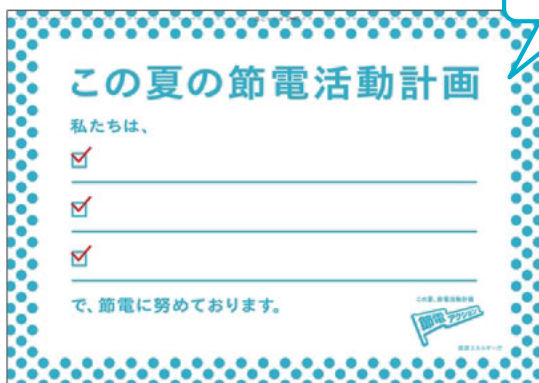
正方形バナー(250x250px)

以下のタグをHTMLのソースコードに追加してください。

```
<div id="jigyo-setsuden-go-ip-pr-banner"></div>  
<script type="text/javascript" src="http://jigyo.setsuden.go.jp/user/3-BUF7d-q"></script>
```

▶ コピーする

節電宣言ポスター



節電宣言ポスター

節電行動計画を記入し、オフィスや店舗内に掲載するためのポスターです。

▶ PDFをダウンロードする

▶ PPTをダウンロードする

ステッカー&ポスター
展開イメージ



オフィスビル

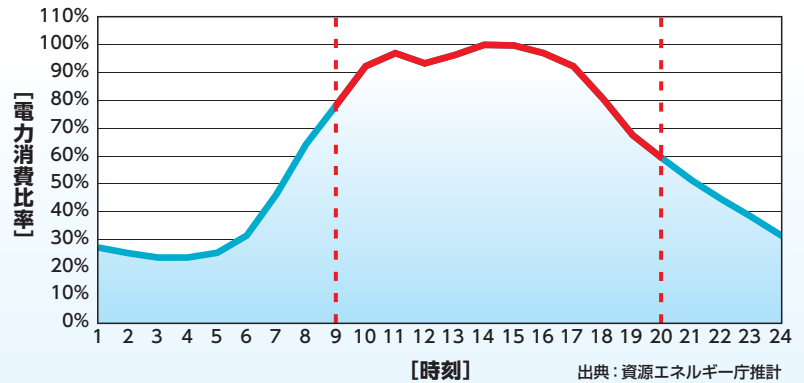
の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

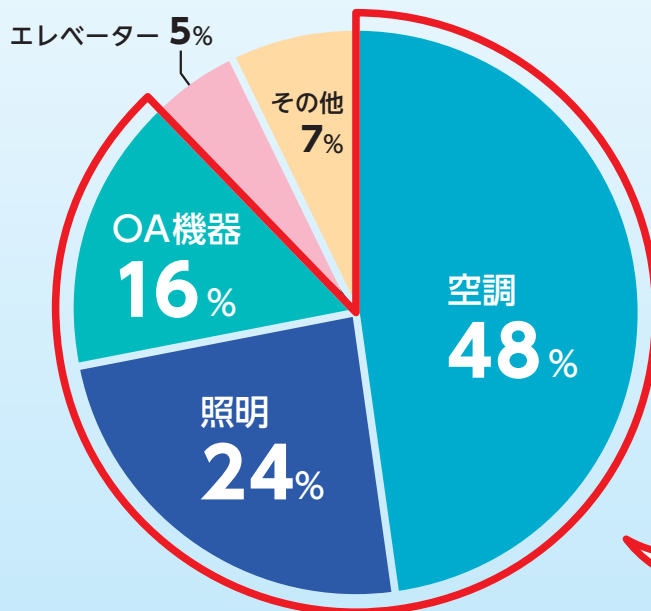
平均的なオフィスビルにおいては、**昼間(10時～17時)に高い電力消費が続きます。**

夜間の消費電力は昼間に比べ**30%程度**になります。

平均的なオフィスビルにおける電力需要カーブのイメージ



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



平均的なオフィスビルにおける用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調用電力が約48%、照明およびOA機器(パソコン、コピー機等)が約40%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約**88%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、OA機器で
約**88%**

オフィスビルの節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調・照明・OA機器**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果目安	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。	13%	<input checked="" type="checkbox"/>	1 %
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>	2 %
空調	執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	4% (+2℃の場合)	<input checked="" type="checkbox"/>	3 %
	使用していないエリアは空調を停止する。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>	4 %
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>	5 %
さらに節電効果が大い以下のアクションも検討してください				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	5%	<input checked="" type="checkbox"/>	6 %
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>	7 %
	冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>	8 %
その他	複数の事業者で交代で休業する。 (7グループに分けて、輪番で週二日休業した場合)	14%	<input checked="" type="checkbox"/>	9 %
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。		<input checked="" type="checkbox"/>	10 %
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		<input checked="" type="checkbox"/>	11 %
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>	12 %
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		<input checked="" type="checkbox"/>	13 %
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		<input checked="" type="checkbox"/>	14 %
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	15 %
	朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		<input checked="" type="checkbox"/>	16 %
コンセント動力	エレベーターやエスカレーターの稼働を半減または停止する。		<input checked="" type="checkbox"/>	17 %
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>	18 %
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	19 %
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	20 %
	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	21 %
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です				
節電啓発	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		<input checked="" type="checkbox"/>	22 %
	節電担当者を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	23 %
	従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		<input checked="" type="checkbox"/>	24 %
	従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	25 %
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			<input checked="" type="checkbox"/>	26 %
			<input checked="" type="checkbox"/>	27 %
			<input checked="" type="checkbox"/>	28 %

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

卸・小売店

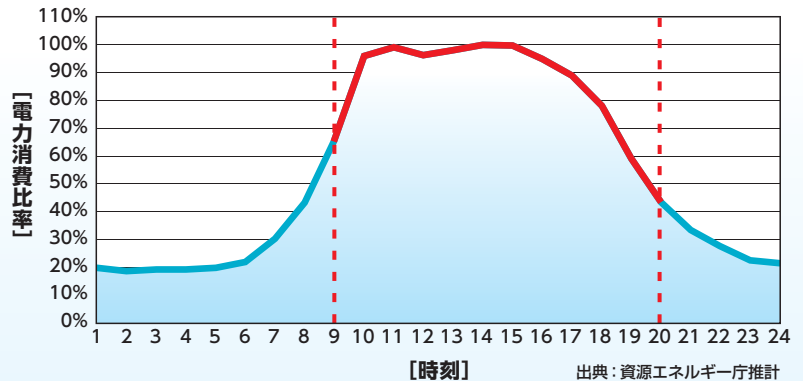
の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

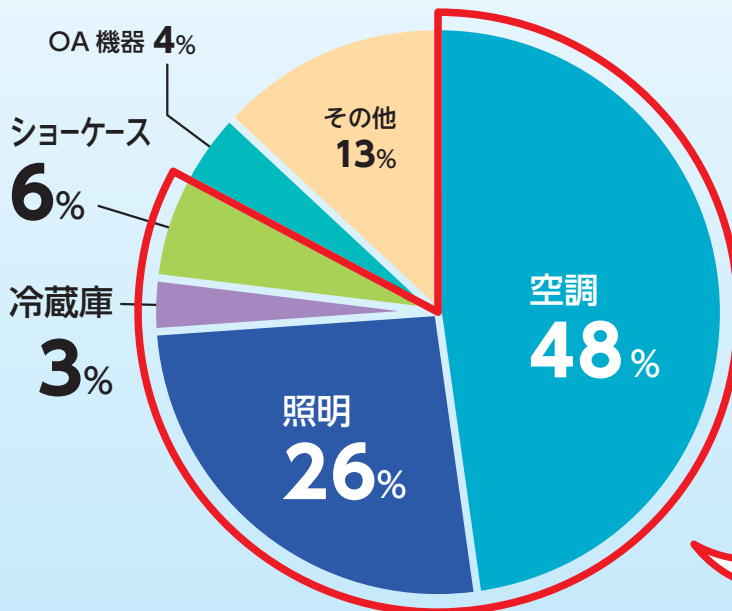
平均的な卸・小売店においては、**昼間(9時～17時)に高い電力消費が続きます。**

夜間の消費電力は昼間に比べ**20%程度**になります。

平均的な卸・小売店における電力需要カーブのイメージ



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



平均的な卸・小売店における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約48%、照明が約26%、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)が約9%を占めます。これらを合わせると電力消費の約**83%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、冷凍冷蔵で
約83%

卸・小売店の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

4つの基本アクションをお願いします				建物全体に対する節電効果目安	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	13%	<input checked="" type="checkbox"/>	1	%	
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>	2	%	
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	4% (+2℃の場合)	<input checked="" type="checkbox"/>	3	%	
冷凍冷蔵	業務用冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>	4	%	
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください						
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	8%	<input checked="" type="checkbox"/>	5	%	
その他	ピーク時間を避けるため、営業時間や営業日を短縮・シフトする。(系列5店舗間で輪番平日一日休業または営業時間短縮した場合。)	10%	<input checked="" type="checkbox"/>	6	%	
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします						
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		<input checked="" type="checkbox"/>	7	%	
空調	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。		<input checked="" type="checkbox"/>	8	%	
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>	9	%	
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		<input checked="" type="checkbox"/>	10	%	
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場の冷気流出を防止する。		<input checked="" type="checkbox"/>	11	%	
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	12	%	
冷凍冷蔵	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	13	%	
	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにすると共に、定期的に清掃する。		<input checked="" type="checkbox"/>	14	%	
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースについては、冷気が漏れないようビニールカーテンなどを設置する。		<input checked="" type="checkbox"/>	15	%	
コンセント動力	デモンストレーション用の家電製品などではできる限り電源をオフにする。		<input checked="" type="checkbox"/>	16	%	
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>	17	%	
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	18	%	
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	19	%	
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	20	%	
従業員への節電の啓発も大事です						
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		<input checked="" type="checkbox"/>	21	%	
	節電担当者を任命し、責任者(店長、部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	22	%	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	23	%	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください						
			<input checked="" type="checkbox"/>	24	%	
			<input checked="" type="checkbox"/>	25	%	
			<input checked="" type="checkbox"/>	26	%	

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

食品スーパー

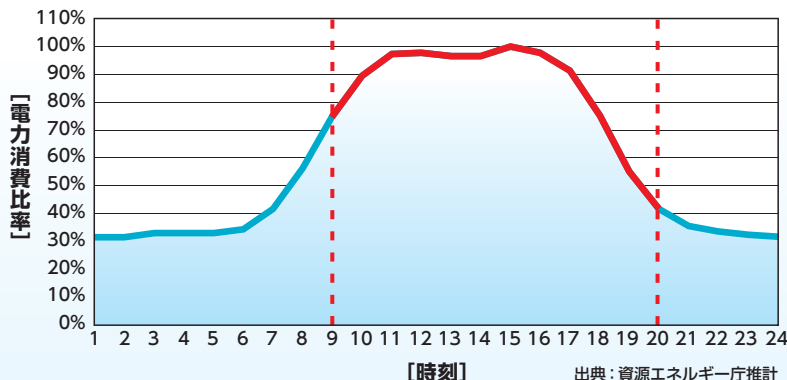
の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

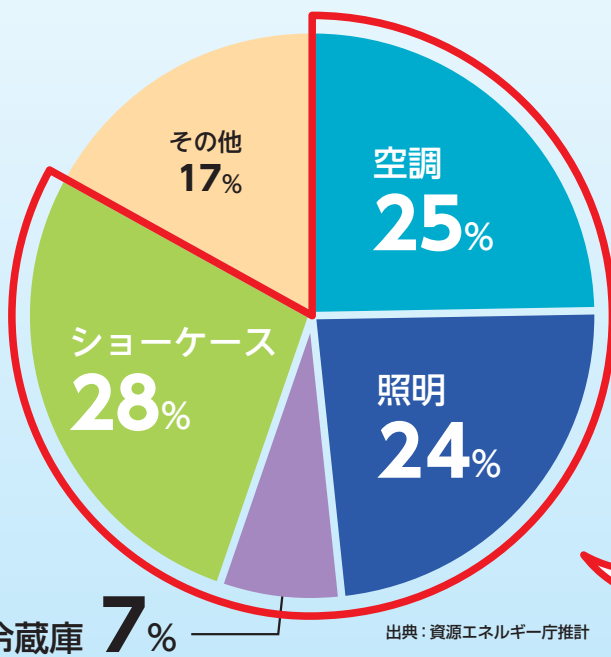
平均的な食品スーパーにおいては、**昼間(10時～17時)に高い電力消費が続きます。**

夜間の消費電力は昼間に比べ**30%程度**になります。

平均的な食品スーパーにおける電力需要カーブのイメージ



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



冷蔵庫 7%

平均的な食品スーパーにおける用途別電力消費比率

※端数処理により合計値が100%とならないことがあります。

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース、ショーケース用照明等)が約35%、空調および照明(一般照明)が約49%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約**84%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、冷凍冷蔵で
約**84%**

食品スーパーの節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

5つの基本アクションをお願いします			建物全体に対する節電効果目安	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	11%	<input checked="" type="checkbox"/>	1	%
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>	2	%
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	1% (+2℃の場合)	<input checked="" type="checkbox"/>	3	%
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>	4	%
冷凍冷蔵	業務用冷凍・冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	5%	<input checked="" type="checkbox"/>	5	%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください					
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	4%	<input checked="" type="checkbox"/>	6	%
その他	ピーク時間を避けるため、営業時間や営業日を短縮・シフトする。(系列5店舗間で輪番平日一日休業または営業時間短縮した場合。)	10%	<input checked="" type="checkbox"/>	7	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします					
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		<input checked="" type="checkbox"/>	8	%
空調	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		<input checked="" type="checkbox"/>	9	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>	10	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		<input checked="" type="checkbox"/>	11	%
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場の冷気流出を防止する。		<input checked="" type="checkbox"/>	12	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	13	%
冷凍冷蔵	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品をおかないようにすると共に、定期的に清掃する。		<input checked="" type="checkbox"/>	14	%
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースに冷気流出防止用ビニールカーテンを設置する。		<input checked="" type="checkbox"/>	15	%
	調理機器、業務用冷凍・冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	16	%
コンセント動力	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>	17	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	18	%
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	19	%
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	20	%
従業員への節電の啓発も大事です					
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		<input checked="" type="checkbox"/>	21	%
	節電担当者を決め、責任者(店長・部門長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	22	%
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	23	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください					
			<input checked="" type="checkbox"/>	24	%
			<input checked="" type="checkbox"/>	25	%
			<input checked="" type="checkbox"/>	26	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

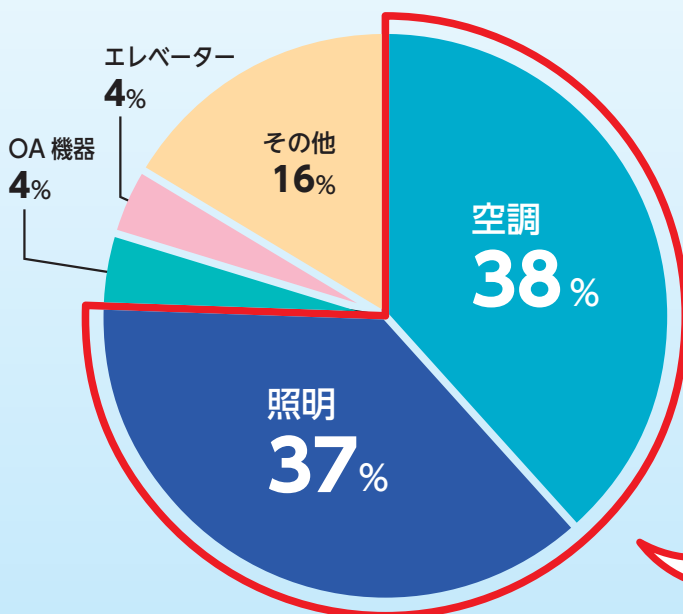
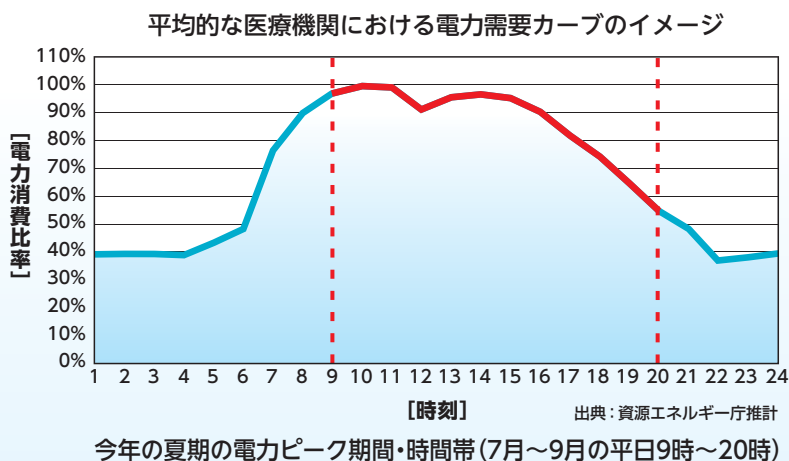
医療機関

の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的な医療機関(病院・診療所等)においては、**昼間(9時～16時)**に高い電力消費が続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ**40%程度**になります。



出典：資源エネルギー庁推計

平均的な医療機関における用途別電力消費比率

※端数処理により合計値が100%とならないことがあります。

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約38%、照明が約37%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約**75%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明で
約**75%**

医療機関の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果目安	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	事務室の照明を半分程度間引きする。	4%	<input checked="" type="checkbox"/>	1 %
	使用していないエリア(外来部門、診療部門の診療時間外)は消灯を徹底する。	4%	<input checked="" type="checkbox"/>	2 %
空調	病棟、外来、診療部門(検査、手術室等)、厨房、管理部門毎に適切な温度設定を行う。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>	3 %
	使用していないエリア(外来、診療部門等の診療時間外)は空調を停止する。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>	4 %
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>	5 %
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>	6 %
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		<input checked="" type="checkbox"/>	7 %
	病棟では可能な限り天井照明を消灯し、スポット照明を利用する。		<input checked="" type="checkbox"/>	8 %
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>	9 %
	搬入口の扉やバックヤードの扉を必ず閉め冷気流出を防止する。		<input checked="" type="checkbox"/>	10 %
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	11 %
コンセント 動力	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	12 %
	電気式オートクレーブの詰め込み過ぎの防止、定期的な清掃点検を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	13 %
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>	14 %
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	15 %
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	16 %
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	17 %
医療機関関係者への節電の啓発も重要です				
節電 啓発	節電目標と具体策について、職員全体に周知徹底し実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	18 %
	節電担当者を任命し、責任者(病院長・事務局長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	19 %
	医療機関関係者に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	20 %
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			<input checked="" type="checkbox"/>	21 %
			<input checked="" type="checkbox"/>	22 %
			<input checked="" type="checkbox"/>	23 %

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

ホテル・旅館

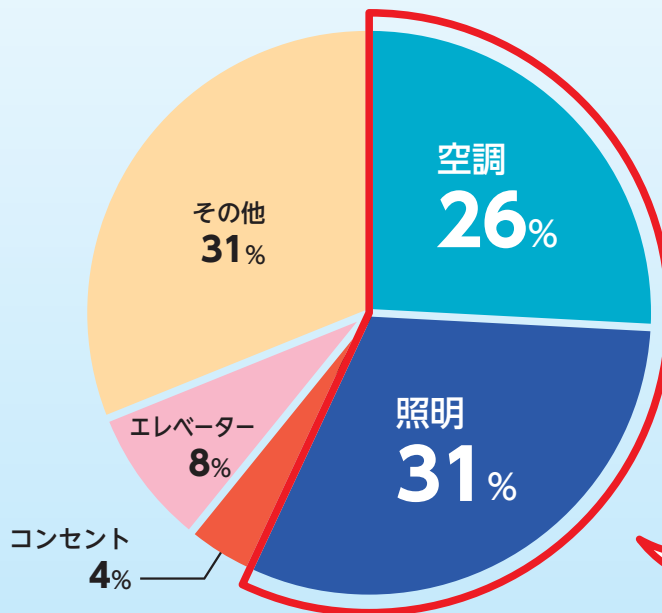
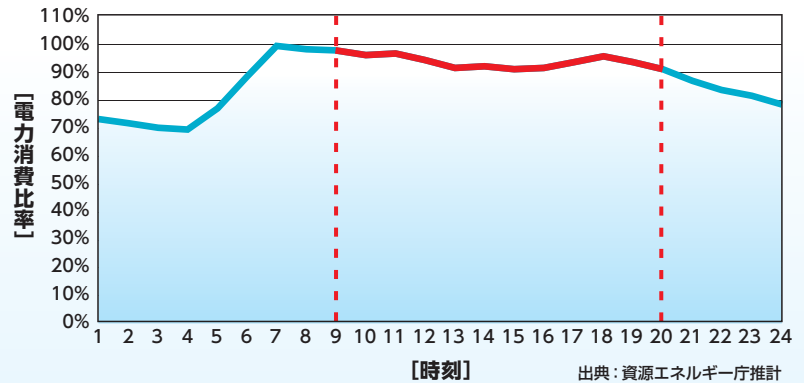
の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的なホテル・旅館においては、23時以降の深夜～朝6時頃の夜間以外は高い電力消費が続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ**70%程度**になり、昼夜間格差は小さいです。

平均的なホテル・旅館における電力需要カーブのイメージ



出典：資源エネルギー庁推計

平均的なホテル・旅館における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約26%、照明が約31%を占めます。(左グラフの照明比率の構成としては、概ね、客室:客室以外=1:7となっています。)

これらを合わせると電力消費の約**57%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明で
約**57%**

ホテル・旅館の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

3つの基本アクションをお願いします			建物全体に対する 節電効果目安	取組 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	客室以外のエリアの照明を半分程度間引きする。	13 %	<input checked="" type="checkbox"/>	1	%
空調	使用していないエリア(会議室、宴会場等)は空調を停止する。	1 %	<input checked="" type="checkbox"/>	2	%
	ロビー、廊下、事務室等の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	1 % (+2℃の場合)	<input checked="" type="checkbox"/>	3	%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください					
空調	客室外気給気/浴室排気システムの場合は、10時~17時の送風量を50%風量、または停止する。	2 %	<input checked="" type="checkbox"/>	4	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします					
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		<input checked="" type="checkbox"/>	5	%
	宴会場の準備、片付けの際には一般照明のみ点灯し、演出照明(シャンデリア等)は消灯する。		<input checked="" type="checkbox"/>	6	%
	宿泊客への協力要請を通じて、客室の照明を抑制する(使用していない照明の消灯等)。		<input checked="" type="checkbox"/>	7	%
空調	厨房排気を確認し適正な風量に調節する(過大な場合は外気を誘引してしまうため)。		<input checked="" type="checkbox"/>	8	%
	車の動きが少ない時間帯の駐車場給排気ファンの間欠運転をする。		<input checked="" type="checkbox"/>	9	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	10	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		<input checked="" type="checkbox"/>	11	%
コンセント 動力	宿泊客への協力要請を通じて、客室の空調を抑制する(温度設定を上げる等)。		<input checked="" type="checkbox"/>	12	%
	エレベーターは10時~17時(空室時)に運転台数を削減する。		<input checked="" type="checkbox"/>	13	%
	客室冷蔵庫のスイッチは「切」で待機する。		<input checked="" type="checkbox"/>	14	%
	給湯循環ポンプの10時~17時(空室時)の流量削減または停止する(中央給湯方式)。		<input checked="" type="checkbox"/>	15	%
その他	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>	16	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	17	%
	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	18	%
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>	19	%
従業員や宿泊客への節電の啓発も大事です					
節電 啓発	施設全体の節電目標と具体策について、従業員全体に周知徹底し実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	20	%
	節電担当者を任命し、責任者(支配人・部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>	21	%
	館内での貼り紙などを通じて宿泊客へ節電を呼びかける。		<input checked="" type="checkbox"/>	22	%
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>	23	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください					
			<input checked="" type="checkbox"/>	24	%
			<input checked="" type="checkbox"/>	25	%
			<input checked="" type="checkbox"/>	26	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

飲食店

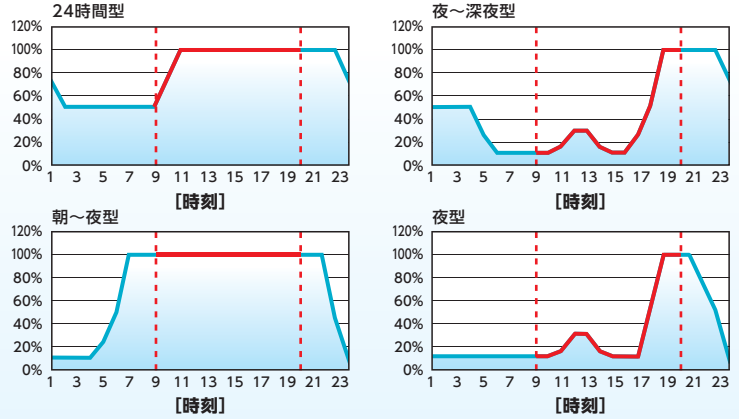
の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

24時間型・昼型・夜型など**営業種別により営業時間帯が異なり**、外気温や入客状況に応じて**電力消費の状況が大きく異なります**。

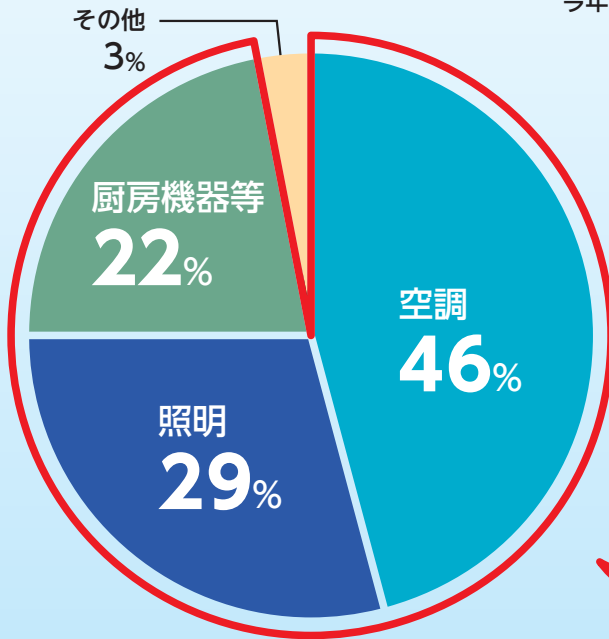
営業時間外の消費電力は営業時間の最大消費電力に比べ、**10%程度**になります。

飲食店における電力需要カーブの事例



出典：資源エネルギー庁推計

今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



出典：資源エネルギー庁推計

飲食店における用途別電力消費比率の事例

電力消費の内訳 (ピーク時:20時前後)

電力消費のうち、空調が約46%、照明が約29%、厨房機器等(給湯・冷蔵庫・ショーケース等)で約22%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約**97%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、厨房機器等で

約**97%**

飲食店の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調・照明・厨房機器等(給湯・冷蔵庫・ショーケース等)**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

※ピーク時間帯が営業時間外の場合でも、ピーク時間帯の節電にご協力ください。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

3つの基本アクションをお願いします		ピーク時間の電力消費内訳【構成比】%	×	システム毎の節電効果目安	=	建物全体に対する節電効果目標※ ※小数点2位以下は四捨五入。	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	使用していないエリア(事務室等)や不要な場所(看板、外部照明等)の消灯を徹底し、客席の照明を半分程度間引きする。	29% 【 】%	×	40% 【 】%	=	11.6% ()%	<input checked="" type="checkbox"/> 1	%
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	46% 【 】%	×	8% (+2℃の場合) 【 】%	=	3.7% ()%	<input checked="" type="checkbox"/> 2	%
厨房	冷凍冷蔵庫の庫内は詰め込みすぎず、庫内の整理を行うとともに、温度調節等を実施する。	22% 【 】%	×	3% 【 】%	=	0.7% ()%	<input checked="" type="checkbox"/> 3	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします								
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。						<input checked="" type="checkbox"/> 4	%
空調	使用していないエリアは空調を停止する。						<input checked="" type="checkbox"/> 5	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。						<input checked="" type="checkbox"/> 6	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。						<input checked="" type="checkbox"/> 7	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。						<input checked="" type="checkbox"/> 8	%
厨房	使用していない機器(調理機器など)のプラグを抜く。						<input checked="" type="checkbox"/> 9	%
	調理機器の設定温度の見直しを行う。						<input checked="" type="checkbox"/> 10	%
	業務用冷蔵庫のドアの開閉回数や時間を低減し、冷気流出防止ビニールカーテンを設置する。						<input checked="" type="checkbox"/> 11	%
コンセント動力	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。						<input checked="" type="checkbox"/> 12	%
その他	デマンド監視装置を導入し設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。						<input checked="" type="checkbox"/> 13	%
従業員への節電の啓発も大事です								
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。						<input checked="" type="checkbox"/> 14	%
	節電担当者を決め、責任者(店長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。						<input checked="" type="checkbox"/> 15	%
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。						<input checked="" type="checkbox"/> 16	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください								
							<input checked="" type="checkbox"/> 17	%
							<input checked="" type="checkbox"/> 18	%
							<input checked="" type="checkbox"/> 19	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意
●記載している節電効果は、設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。
●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

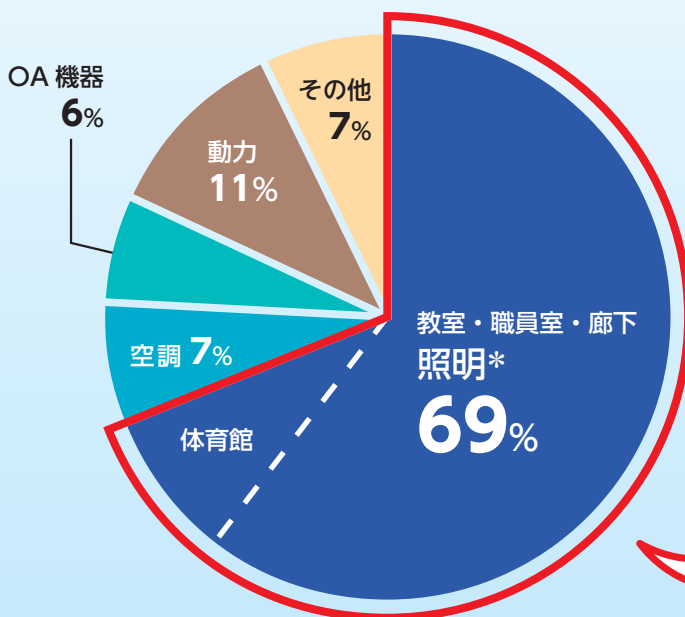
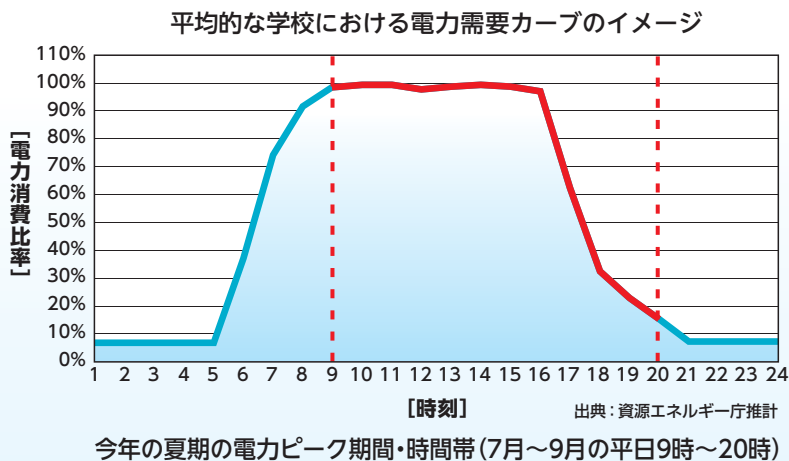
学校

の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的な学校においては、**昼間(9時～17時)に高い電力消費が続きます。**

夜間の消費電力は昼間に比べ**10%程度**になります。



電力消費の内訳

(夏期就学日のピーク時:14時前後)

夏期の就学日におけるピーク時は、照明が約**69%**を占めています。

小口需要家(小、中、高校)においては、教室部分に空調を設置していない場合が多いため、照明の比率が高くなっています。ただし、空調を設置している学校については空調の比率が高くなることに留意が必要です。

*照明の比率は、体育館:教室・職員室・廊下=1:6となっています。

照明で約**69%**

出典：資源エネルギー庁推計

平均的な学校の夏期就学日ピーク時の用途別電力消費比率

※夏休み期間は、教室と体育館の照明比率が概ね逆転します。

学校の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**照明**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

照明での基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果目安	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	教室、職員室、廊下の照明を間引きする。	16% (約4割減の場合)	<input checked="" type="checkbox"/> 1	%
	点灯方法や使用場所を工夫しながら体育館の照明を1/4程度間引きする。	2%	<input checked="" type="checkbox"/> 2	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		<input checked="" type="checkbox"/> 3	%
空調	使用していないエリア(教室、音楽室等)は空調を停止する。		<input checked="" type="checkbox"/> 4	%
	日射を遮るために、緑のカーテン、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		<input checked="" type="checkbox"/> 5	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/> 6	%
	特別教室(音楽室、コンピュータ室等)は連続利用する。		<input checked="" type="checkbox"/> 7	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/> 8	%
コンセント動力	プールの水位調整のための給排水を少なくするよう工夫する。		<input checked="" type="checkbox"/> 9	%
	プール用水のろ過フィルタを清掃する。		<input checked="" type="checkbox"/> 10	%
	待機電力を削減する。 (特に夏休み中はパソコン、テレビ等のプラグをコンセントから抜く。)		<input checked="" type="checkbox"/> 11	%
	献立や調理の工夫により食器等を減らして食器洗浄機を使用したり、熱風保管庫の使用時間帯をシフトするなど、ピーク電力を抑制する工夫をする。		<input checked="" type="checkbox"/> 12	%
その他	手洗い等、水の流し放し、水の出しすぎに注意する。		<input checked="" type="checkbox"/> 13	%
	節水こま、泡沫水洗を使用する。		<input checked="" type="checkbox"/> 14	%
学校関係者への節電の啓発も大事です				
節電啓発	児童・生徒等に対する節電教育を行い、児童・生徒等の自発的な活動を推進する。		<input checked="" type="checkbox"/> 15	%
	節電担当を決め、責任者(校長先生等)と関係者が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/> 16	%
	学校関係者に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/> 17	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			<input checked="" type="checkbox"/> 18	%
			<input checked="" type="checkbox"/> 19	%
			<input checked="" type="checkbox"/> 20	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、指導上、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

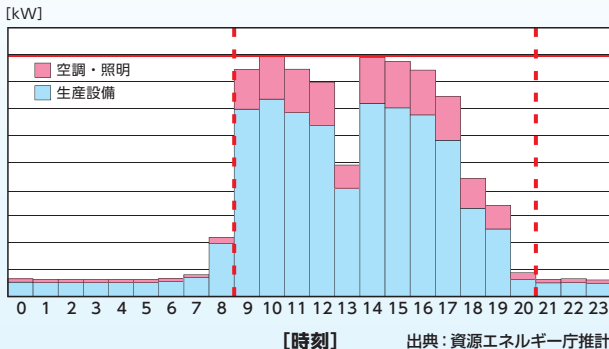
製造業

の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

●昼間操業の需要家 (一般的な稼働時間)

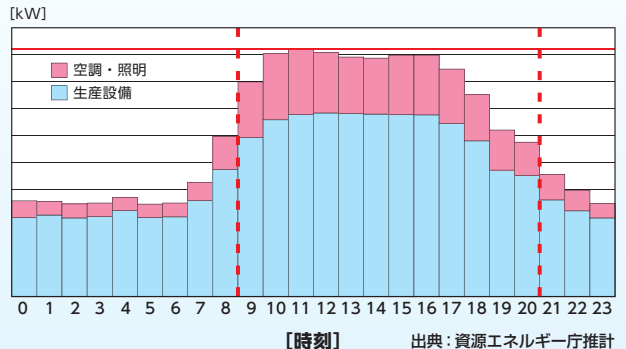
主な業種: 金属加工、自動車部品製造、
電気・一般機械製造 (組立) など
負荷設備: 生産機械、電気炉、空調・照明など



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯 (7月～9月の平日9時～20時)

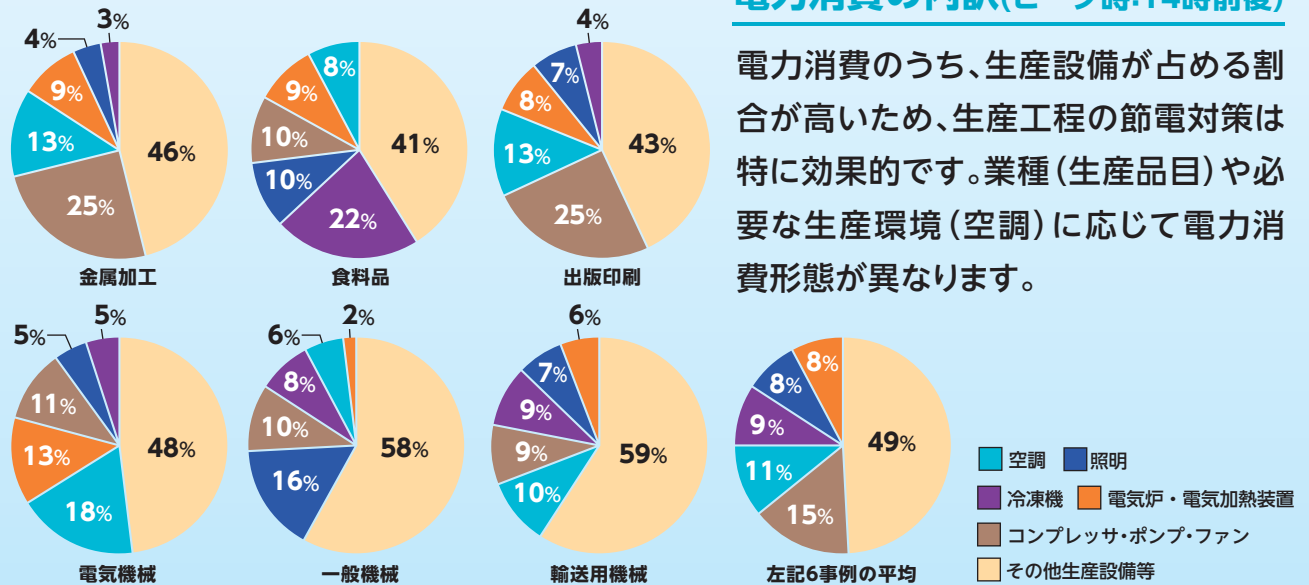
●昼夜連続操業の需要家 (高い稼働時間)

主な業種: 食品加工、電気・半導体製造など
負荷設備: 生産機械、空調・照明、クリーンルーム、
冷凍・冷蔵設備など



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯 (7月～9月の平日9時～20時)

業種別電気負荷設備容量構成比 (例)



電力消費の内訳 (ピーク時: 14時前後)

電力消費のうち、生産設備が占める割合が高いため、生産工程の節電対策は特に効果的です。業種 (生產品目) や必要な生産環境 (空調) に応じて電力消費形態が異なります。

製造業の節電対策は、ピーク時間帯 (平日9時～20時) における
生産用動力の稼働シフトなどにより

生産設備の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名	
責任者名	

節電目標	
節電実績	

生産設備の節電メニュー		ピーク時間の電力消費内訳【構成比】%	×	機械・設備毎の節電効果目安	=	建物全体に対する節電効果目標※ ※小数点2位以下は四捨五入。	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
	不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。	49% 【 】%	×	()%	=	()%	<input checked="" type="checkbox"/>	1 %
	電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果:保温施工の実施例)	8% 【 】%	×	7%	=	0.6% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	2 %
ユーティリティ設備の節電メニュー								
	使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果:単機における0.1MPa低減時)		×	8%	=	1.2% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	3 %
	コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合わせる]。 (節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)		×	2%	=	0.3% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	4 %
	負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果:コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合)	15% 【 】%	×	9%	=	1.4% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	5 %
	インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)		×	15%	=	2.3% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	6 %
	冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)	9% 【 】%	×	8%	=	0.7% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	7 %
一般設備(照明・空調)の節電メニュー								
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。		×	()%	=	()%	<input checked="" type="checkbox"/>	8 %
	白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。 (節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明、に交換した場合)	8% 【 】%	×	①76% ②85%	=	①6.1% ②6.8% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	9 %
空調	工場内の温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。 (節電効果:室内温度設定を2℃上げた場合)		×	6%	=	0.7% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	10 %
	外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 (節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)	11% 【 】%	×	8%	=	0.9% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	11 %
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 (節電効果:日射の影響を受ける室外機によらずをかけた場合)		×	10%	=	1.1% ()%	<input checked="" type="checkbox"/>	12 %
その他の節電メニュー								
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力△15%とし、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。						<input checked="" type="checkbox"/>	13 %
	設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的実施することでロスを低減する。						<input checked="" type="checkbox"/>	14 %
節電啓発	節電担当者を決め、責任者(社長・工場長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。						<input checked="" type="checkbox"/>	15 %
	従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。						<input checked="" type="checkbox"/>	16 %
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。						<input checked="" type="checkbox"/>	17 %
生産用動力の稼働シフトによる電力ピーク抑制								
稼働シフト	バッチ処理工程を早朝や夜間へシフトする(早番・遅番対応等)。						<input checked="" type="checkbox"/>	18 %
	連続処理工程を昼間から夜間へシフトする(熱処理などの加熱工程等)。						<input checked="" type="checkbox"/>	19 %
	事務作業や昼休みの時間を調整し、電力ピークをシフトする。						<input checked="" type="checkbox"/>	20 %
独自対策を追加する場合は下記に記入してください								
							<input checked="" type="checkbox"/>	21 %
							<input checked="" type="checkbox"/>	22 %
							<input checked="" type="checkbox"/>	23 %

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。●空調については電気式空調を想定しています。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

ー オフィスビル 記入例 ー

節電効果は、一般に単純に合計できませんが、本例では、他の対策も盛り込むことにより、単純合計した効果(△19%)が達成できると見込んでいます。

ピーク時電力(kW)を15%以上削減する目標を立てましょう。
※ピーク時電力の把握が困難な需要家は、月間使用電力量(kWh)で目標を設定しても結構です。

事業者名	株式会社〇〇商事△△営業所	節電目標	昨年夏ピーク比で△19%
責任者名	節電 大作	節電実績	

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果目安	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。 <i>4分の1</i>	67% (67%)	<input checked="" type="checkbox"/>	6%
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>	3%
空調	執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	2% (2%)	<input checked="" type="checkbox"/>	2%
	使用していないエリアは空調を停止する。	2%	<input type="checkbox"/>	%
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切る	3%	<input checked="" type="checkbox"/>	3%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンのよって外気取入れ量を調整する(外気導入による)	5%	<input type="checkbox"/>	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひすいシート等を使用する	3%	<input checked="" type="checkbox"/>	3%
その他	冷凍機の冷水出口温度を高めに設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。	2%	<input type="checkbox"/>	%
	複数の事業者で交代で休業する。(7グループに分けて、輪番で週二日休業した場合)	1%	<input type="checkbox"/>	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。 <i>4分の1の照明を従来型蛍光灯からHf蛍光灯に交換する。</i>		<input checked="" type="checkbox"/>	%
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減。) <i>24% × (1/4) × 40% = 約2%</i>		<input checked="" type="checkbox"/>	2%
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>	%
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		<input type="checkbox"/>	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		<input checked="" type="checkbox"/>	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input type="checkbox"/>	%
コンセント動力	朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		<input type="checkbox"/>	%
	エレベーターやエスカレーター稼働を半減または停止する。		<input type="checkbox"/>	%
その他	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input type="checkbox"/>	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		<input type="checkbox"/>	%
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input type="checkbox"/>	%
	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		<input type="checkbox"/>	%
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です				
節電	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		<input type="checkbox"/>	%
	節電担当者を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議を開催する。		<input checked="" type="checkbox"/>	%
	長期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		<input type="checkbox"/>	%
	従業員・テナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input type="checkbox"/>	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			<input type="checkbox"/>	%
			<input type="checkbox"/>	%
			<input type="checkbox"/>	%
		合計欄に合計数値をご記入ください。		
		合計	19%	

本計画に盛り込む節電対策を選びましょう(✓)。
※基本アクションはできるだけ盛り込みましょう。
※実施できない対策を盛り込む必要はありません。

チェックした項目は数字をご記入ください。

独自の対策は、こちらの記入欄にご記入ください。

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。●節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

一 製造業 記入例一 (出版印刷の場合) ※飲食業の場合も、製造業の記入例をご参照ください。

- 製造業の方は、左記のオフィスビルの記入例もあわせてご覧ください。
 - 業種によって電力消費の内訳が異なるため項目によって計算が必要となってきます。
- ①電力消費の内訳(%) × ②節電効果目安(%) = ③節電効果目標(%)

※記入は必須ではありませんので、不明の場合は空欄でも構いません。

事業者名	株式会社〇〇出版	節電目標	昨年夏ピーク比で△16.2%
責任者名	節電計子	節電実績	

項目	ピーク時間の電力消費内訳【構成比】%	×	機械・設備毎の節電効果目安	=	建物全体に対する節電効果目標※【小数点2位以下は四捨五入】	取組チェック	個別に計算できる場合の節電目標
生産設備の節電メニュー							
不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機種の空転防止を徹底する。	49% [43]	×	(5)%	=	(2.2)%	☑ ¹	2.2%
電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果:保温施工の実施例)	8% [8]	×	7%	=	0.6% (0.6)%	☑ ²	0.6%
ユーティリティ設備の節電メニュー							
使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果:単機における0.1MPa低減時)					$8\% \times 7\% = \frac{8}{100} \times \frac{7}{100} = \frac{56}{10000} = 0.56\%$		%
コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合いする]。 (節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)					(小数点2位以下は四捨五入)		%
負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果:コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合)	25% [25]	×	9%	=	1.4% (2.3)%	☑ ⁵	2.3%
インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)		×	15%	=	2.3% (3.8)%	☑ ⁶	3.8%
冷凍機の冷水出口温度を高めめに設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)	9% [4]	×	8%	=	0.7% (0.3)%	☑ ⁷	0.3%
一般設備(照明・空調)の節電メニュー							
照明							
使用していないエリアは消灯を徹底する。		×	(10)%	=	(0.7)%	☑ ⁸	0.7%
白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。 (節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明、に交換した場合)	7% [7]	×	①76% ②85%	=	①6.1% ②6.8% (5.3)%	☑ ⁹	5.3%
空調							
工場内の温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。 (節電効果:室内温度設定を2℃上げた場合)		×	6%	=	0.7% ()%	☐ ¹⁰	%
外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 (節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)	11% [13]	×	8%	=	0.9% (1)%	☑ ¹¹	1%
室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 (節電効果:直射日光の影響を軽減し、機器の発熱を抑制)		×	10%	=	1.1% ()%	☐ ¹²	%
						☐ ²²	%
						☐ ²³	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 16.2%

ご注意 ●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。●空調については電気式空調を想定しています。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。 ※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

表 業種別電気負荷設備容量構成比(例)








	空調	照明	コンプレッサ・ポンプ・ファン	冷凍機	電気炉・電気加熱装置	その他生産設備等	合計
金属加工	13%	4%	25%	3%	9%	46%	100%
食料品	8%	10%	10%	22%	9%	41%	100%
出版印刷	13%	7%	25%	4%	8%	43%	100%
電気機械	18%	5%	11%	5%	13%	48%	100%
一般機械	6%	16%	10%	8%	2%	58%	100%
輸送用機械	10%	7%	9%	9%	6%	59%	100%
上記6事例の平均	11%	8%	15%	9%	8%	49%	100%

※上記表の構成比をご参考いただき、「ピーク時間の電力消費内訳」欄に数字をご記入ください。

※不明な場合は、欄中に記載されている値をご使用ください。

家庭の節電対策メニュー

ご家庭で取りくむ対策をチェックし、「我が家の節電対策」を作りましょう。

取りくんでいただきたい節電対策メニュー		削減率	削減消費電力
 エアコン	① 室温28℃を心がけましょう。	10%	130w <small>※設定温度を2℃上げた場合</small>
	② “すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう(エアコンの節電になります)。	10%	120w
	③ 無理のない範囲でエアコンを消して、扇風機を使いましょう。 <small>※除湿運転やエアコンの頻繁なオンオフは電力の増加になるので注意しましょう。</small>	50%	600w
 冷蔵庫	④ 冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品をつめこまないようにしましょう。	2%	25w
 照明	⑤ 日中は照明を消して、夜間も照明をできるだけ減らしましょう。	5%	60w
 テレビ	⑥ 省エネモードに設定するとともに画面の輝度を下げ、必要な時以外は消しましょう。 <small>※標準→省エネモードに設定し、使用時間を2/3に減らした場合</small>	2%	25w
 温水洗浄便座 (暖房便座)	⑦ 便座保温・温水のオフ機能、タイマー節電機能が あれば、これらを利用しましょう。	いずれかの対策により	
	⑧ 上記の機能がなければコンセントからプラグを抜いておきましょう。	1%未満	5w
 ジャー炊飯器	⑨ 早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫に保存しましょう。	2%	25w
 待機電力	⑩ リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切りましょう。 長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜いておきましょう。	2%	25w

外出している時にも、④ ⑦ ⑧ ⑩の対策に取りくみましょう。

⚠ エアコンの控え過ぎによる熱中症などに気をつけて、無理のない範囲で節電しましょう。

※節電効果の記載値は、在宅世帯の日中の平均的消費電力(14時:約1200W)に対する削減率と削減消費電力の目安です(資源エネルギー庁推計)。また、削減率は全て小数点以下を切り捨てています。

節電ダイヤル 0570-064-443 開設時間9時~17時(土日祝含む) URL <http://setsuden.go.jp>



みんなでやれば、
必ずできる。

家庭向け節電サイト <http://seikatsu.setsuden.go.jp>

政府の節電ポータルサイト <http://setsuden.go.jp>

節電のタイミングとコツを知って、効果的な「節電アクション」を。

この夏電力の不足が予想されています。

ご家庭においても、無理のない範囲で、節電へのご協力をお願いしています。

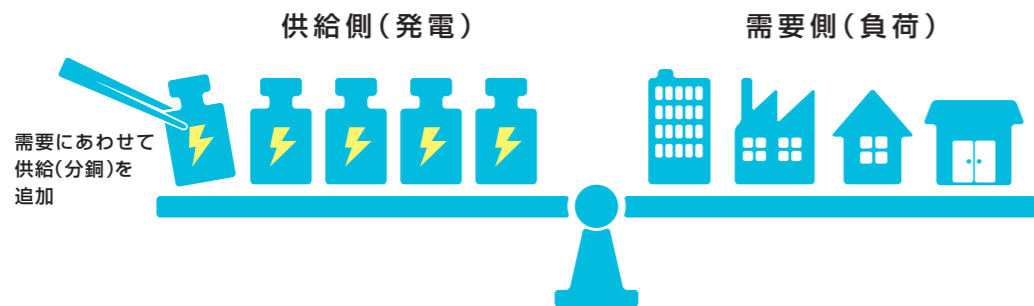
電気は、ためておくことができません。

需要が供給を上回らないようにするためには、皆さんの節電が不可欠です。

必要な電気と不必要な電気を分別することで、各々の節電ポイントをしっかり見極め、

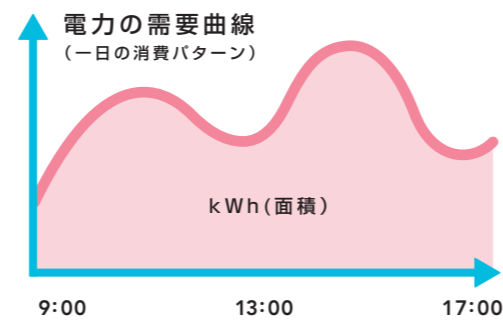
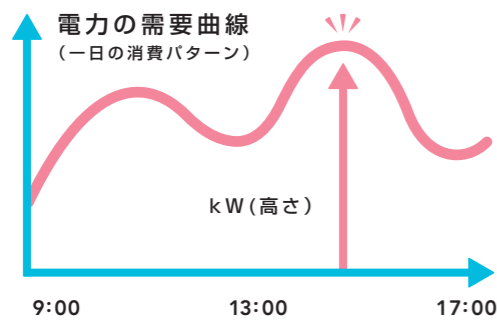
この夏を乗り切りましょう。皆さま、よろしくお祈りします。

電気はためて使うことができません。
一瞬一瞬、需要にあわせて供給しています。



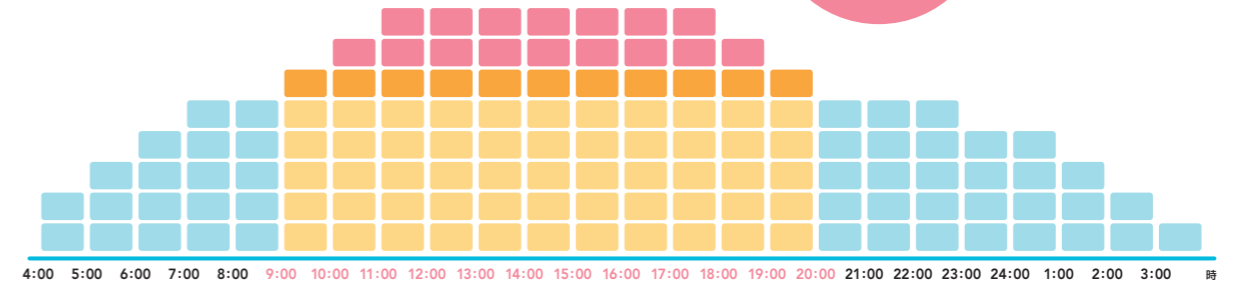
このバランスを保たなくてはなりません。

瞬間の使用電力をkW、
時間あたりの使用電力の総量をkWhとといいます。
節電で気にしなければいけない単位は、kWです。

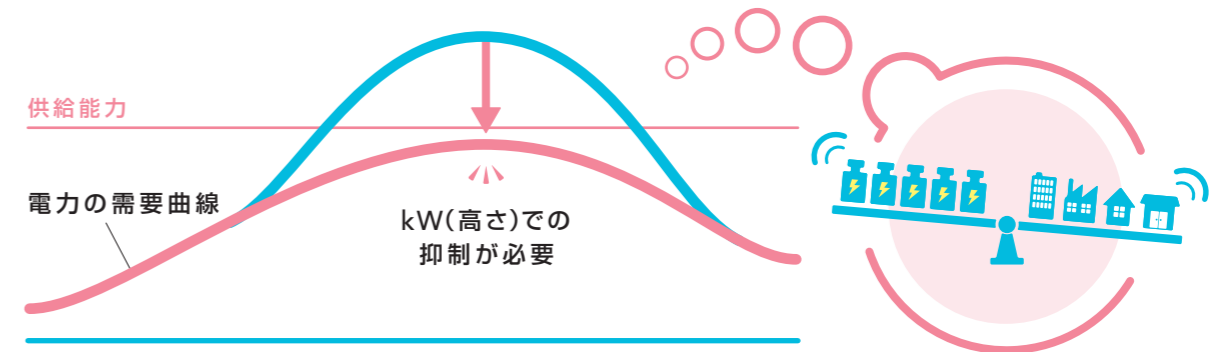


平日の日中は、電力需要が高まり、
節電が必要な時間帯となります。

充電や炊飯など
ピーク時を
避けられるものは
シフトする必要があります。

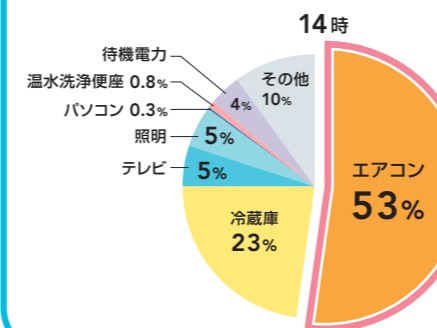


ピーク時間帯は、使用電力の削減により、
需要が供給をこえないようにしなければなりません。

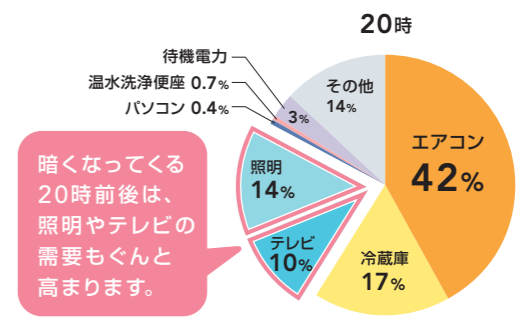


昼間と夜では、使っている電気の割合が異なります。
時間帯に応じた効果的な節電に取り組みましょう。

● 家庭の電力消費の割合



気温が上がる
14時前後は、
エアコンの
需要が
高まります。



暗くなってくる
20時前後は、
照明やテレビの
需要もぐんと
高まります。

出典:資源エネルギー庁推計